

香川のモダニズム

歴史的建造物と美術館を巡るwith河内タカ氏

I イサムノグチ庭園美術館



美術館に到着する前に、何気なく置かれている赤と黒のシーソーはイサムノグチの作品です。



何かわからないけど、楽しい形の遊具もイサムノグチの作品。宮本さんにモデルを頼み。。。



この門まで、撮影許可。
後ろの石垣は、こちらの世界とノグチ氏の世界の境を表しているようです。
中は撮影禁止なので、行ってからのお楽しみ！

香川のモダニズム

II ナガレスタジオ 流政之美術館



アメリカのワールドトレードセンターに、作品が置かれていた彫石の芸術家。
彼設計の自宅兼工房。
手前の丸い建物が茶室になっている。



とても見晴らしの良い位置に
建てられており、作品にはこ
んな可愛いサインが刻まれい
ます。



この美術館の素敵な理事長さ
ん。流政之の作品をととても大
事に行っていることが伝わっ
てきます。

香川のモダニズム

III 香川県庁舎と香川県立体育館



伝統からの創造

(香川県庁舎の模型)

木造建築をイメージさせる柱と梁の組み合わせで、日本家屋の軒先を思わせ、手すり付きのベランダなど、日本の伝統的な建築表現がコンクリートと鉄筋という近代的な素材で表現されている。

建築家丹下健三氏と当時の県知事金子正則氏の出会い

香川出身の画家猪熊弦一郎と金子正則氏が、現：丸亀高等学校の先輩後輩にあたり、丹下健三を紹介したことから、始まる。

デザイン知事金子正則は、文化が必要と考えていた。猪熊氏の陶板壁画「和敬清寂」が、1階ロビーに展示されている。

又現在は使用されていない、香川県立体育館も丹下氏の設計。国立屋内総合競技場と同時期の設計で、吊屋根構造と船型の形状が特徴的。又剣持勇の木製の椅子が体育館用にデザインされた。

日本のモダニズムが町中のあちこちに点在している香川でした。

レポーター：花本美江子

